

ナバリスト 22



歴史影絵は
要予約

劇団ふたり

角田 勝さん・久子さん 夫妻

すみた まさる・ひさこ ● 伊賀まちかど博物館「はなびし庵」(中町)で、安本亀八作の夫婦坐像など、先祖伝来の品々を展示。奥座敷で上演される名張の歴史や文化を織り込んだ「歴史影絵」は、夫婦の掛け合いも含めて観光客などに人気だ。そんな「劇団ふたり」は、名張ユネスコ協会から「なばりのたからもの」にも認定されている。



鳥居前の元は酒蔵だった町屋の酒販店を伊賀まちかど博物館として公開中



築 180 年超。幕末の雰囲気を残す奥座敷での歴史影絵は、貴重な体験だ



舞台裏で巧みに歴史影絵を進行するのは妻の久子さん。影絵体験ができる作品も用意

夫婦やから続けられたし、何より皆さんの支えがあつてこそ

「はなびし庵 歴史影絵劇場、はじまり、はじまり〜」。上演の前口上と、拍子木を打つのが夫の役割。影絵を作ったり、人形を操ったり、明かりを当てたりするのが、妻の私の役割です。なんや、「劇団ひとり」なんかと思われるかもしれませんが、演出に関して率直な意見をくれますし、何より夫の人脈と人を巻き込む力は、すごいんですわ。

これまで手掛けたのは25作ほど。郷土史家さんに脚本を書いてもらったり、高校生にナレーションや効果音を付けてもらったり。流ちょうな名張弁でセリフを入れてくれた近所の人もいます。影絵の舞台づくりも、大工さんや電気屋さんが一緒にあって考えてくれましたからね。あれっ、こうやって振り返ると、やっぱり、地域の皆さんのおかげですわね。名張は、誰かが動く、誰かが手を貸してくれるまち。ほんまに、感謝しかありません。

影絵づくりは、何の経験もないところからのスタート。毎日が試行錯誤の連続です。それだけに、作品ができあがった時のうれしさはひとしお。もう、「お産」と一緒ですわ。ある日、童謡「ふるさと」を描いた影絵を見て、目いっぱい涙を浮かべるとお年寄りがいってはって…。光と動きで、見る人の想像力をかき立てる影絵って、やっぱりすごいなあって。今の一押しは、集大成となる高吉さんの物語。観光客はもちろん、名張の殿様のお話なんて、市民の皆さんにこそ見てもらいたいです。

夫婦でケンカも、ようしますけど、一人やったら、21年も続いてません。これからも「劇団ふたり」で名張の物語を紡いでいきたいと思っています。

編集後記

高吉公の影絵には、養子に出された時の心理描写や、上演の季節で葉色を変えるなど、細部へのこだわりも。二人の思いが込められているからこそ、心にあたたかな余韻が残るのだと感じました(たか)

今年の目標は「心身ともに健やかに」。波乱万丈の人生を送りながらも、92歳まで長生きした高吉公を目指します。まずは簡単な運動から始めよう(毎年同じ事を言っている私(くま))

いろいろなお店取材して、知らない間にたくさんの人に見守られているんだと気づきました。普段はセルフを選んではいますが、たまにはお店の人との会話を楽しんでみようかな(はる)

福岡由来の我が家のお雑煮。椎茸出汁にブリ、丸餅、そして伝統野菜のかつお菜が入ります。お雑煮は地域の歴史を反映した料理。調べるだけで日本全国を旅する気持ちになれますね(はな)



名張のひと・活動

令和8年1月10日発行

● 人口 73,310人 (前月比 - 45人) ● 世帯数 35,022世帯 (前月比 - 14世帯) ※ 12/1 現在

広報なばり

発行/名張市 なばりの未来創造部 広報シティプロモーション推進室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1

☎ 0595-63-7402 FAX 0595-63-2560 ✉ pr@city.nabari.lg.jp



市HP